

2015年度の公的年金積立金の運用収益が5兆数億円の赤字になることが分かった。年金積立金運用独立行政法人（GPIF）が運用する積立金が赤字になるのは2010年以来、5年ぶりとなる。

GPIFは例年、7月上旬に運用収益を公表しているが、今年は保有株の銘柄なども合わせて開示するため、7月29日とする。厚労省は「短期的に赤字になることはあるが、長期的には黒字である」と説明している。

市場での本格運用を始めた2001年度以降の累積の収益は約45兆円の黒字になる見通しである。

GPIFは2014年10月、国内外の株式や債券の割合を定めた基本ポートフォリオ（資産構成）を変更し、国内株式と外国株式をそれぞれ25%に引き上げた。株価の影響は受けやすくなったが、GPIFは現在の資産構成を維持する方針だ。

市場では、株価は当面、大幅な上昇を見込みにくいとの見方が多い。英国のEU離脱などで世界経済の先行き不透明感が強まっており、外国為替市場で円高傾向が続くと見られるためだ。株安が続けば、GPIFの運用収益の赤字が続く可能性もあるという。（2016/07/12）